

研修報告書 No. 4

所 属： 昭和医科大学病院

氏 名： 卜部 峻一

研修先： 高北病院

5月の1ヶ月間、高北病院で地域医療研修を行いました。私は高知県、四国地方に来ることが初めてであり、期待と不安で胸を膨らませながら研修が始まりました。空港に着くと高知医療再生機構の職員の方が温かく出迎えてくれて昼食をご馳走していただきながら高知県の観光地や歴史について色々と話してもらい、緊張もすぐに和らぐことができました。

高北病院は病院規模としては90床ほどの比較的小さな病院であり、普段大学病院で働いている自分がまず感じたことは、医師同士の繋がりもそうですが、他の医療スタッフの方々との連携が取りやすくチーム医療を実践しやすいことです。大きな病院で仕事をしていると職員の人数が多く部署が細分化されているため、ある内容をどこに相談したらよいのか分からないことや、情報が他のスタッフに引き継ぎされていないということが頻繁にあります。病棟や外来、その他にも様々な部署を見学しましたが、高北病院ではお互いが顔見知りの関係であり他の部署とスムーズにコミュニケーションを取って連携を取りながら仕事が進んでいく印象を受けました。どんな仕事でも言えることだとは思いますが、仕事を円滑に行なっていく上で良好な関係性が築けているかは重要な要素であることを再認識することができました。

研修内容では看護師さんによる褥瘡回診、検査技師さんのエコー検査、栄養士さんによる栄養の考え方の講義など普段は自分の病院にもあるけれども、意識して見ていなかった部分に触れることができ大変勉強になりました。特に褥瘡に関しては、栄養状態が悪化すると治りが遅くなり、入院の原因となっている病気の治癒にも影響してくる要素であることを知り、入院時から行う予防の重要性や栄養をはじめとする全身管理の大切さを学ぶことができました。エコーに関しては、CTの普及により、なかなか研修の中で実践することが少ない検査ですが、検査技師の方が丁寧に当て方や所見の取り方を説明してくださり、腹部エコーの技術を重点的に習得することができました。患者さんにとって侵襲が低く、簡便な検査を医療従事者としては行っていくべきであり、今後救急外来などで研鑽を積みながら是非実践して診療に役立てていきたいです。

高知県の医療の実際について様々な話を伺いました。意外なことに高知県全体で見たときに患者さんに対しての医師の数は充足しており、むしろ全国と比較すると多いそうです。問題となっているのは市内に医師が集中して地方に医師が足りないという医師の偏在です。高北病院は后者であり、常勤の医師が少なく、市内の大きな病院から医師を派遣することによって外来や夜間の当直を行っている現状がありました。こういった問題を解決するため

に大学での地域枠の設置や、市内からの医師の派遣の制度があるようですが安定的な地方への医師人材の確保はなかなか難しく、高知県だけではなく県外からの応援の制度なども必要であると感じました。特に東京都の医師の数は増加しており、将来の自分も含めて都心の若手の医師がどのようにしたら地方へ学びに行きたいと思えるか、地方での研修はメリット・デメリットあると思いますが情報を発信していくことが鍵となると思いました。

1 ヶ月間という短い期間でしたが自然豊かな土地でのびのびと研修をさせていただいて、観光も含めて東京では得られない経験を沢山することができました。高北病院の指導して下さった先生方をはじめ、その他医療スタッフの方々本当にお世話になりました。ありがとうございました。医師として経験を積み成長した後にいつかまた高知県の地域医療に貢献できれば良いなと感じています。その際にはまたよろしく願いいたします。